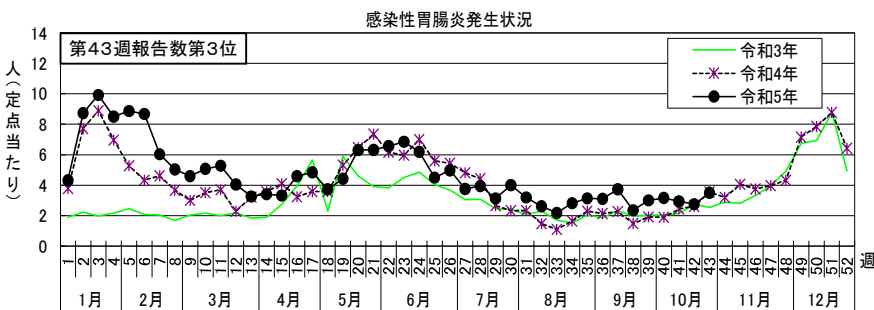
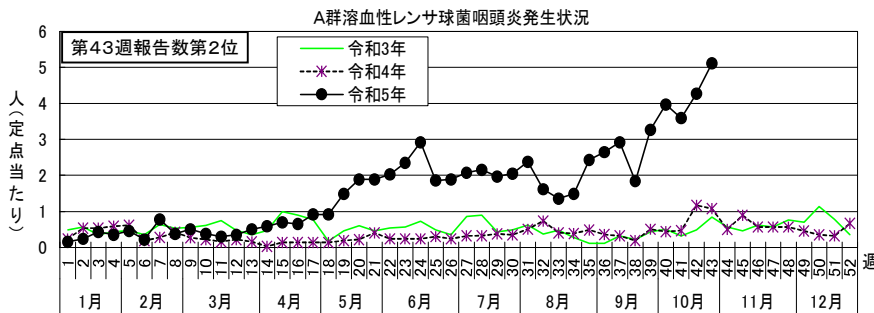
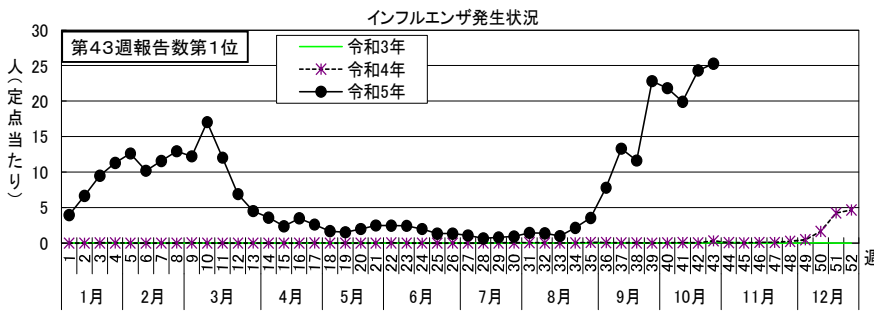


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年10月23日（月）～令和5年10月29日（日）〔令和5年第43週〕の感染症発生状況

第43週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 感染性胃腸炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は25.28人と前週（24.34人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は5.11人と前週（4.27人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.49人と前週（2.76人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



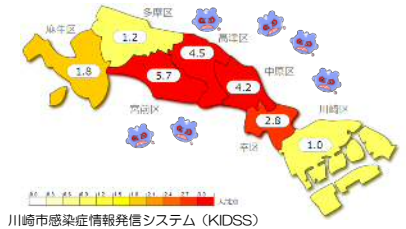
咽頭結膜熱の流行発生警報が発令されました！

川崎市における令和5年第43週（10月23日～29日）の咽頭結膜熱の定点当たり患者報告数は3.16人となり、平成18年以来17年ぶりに流行発生警報基準値（定点当たり3.00人）を超えました。7区のうち、中原区、高津区及び宮前区で基準値を超えており、宮前区が最多となっています。

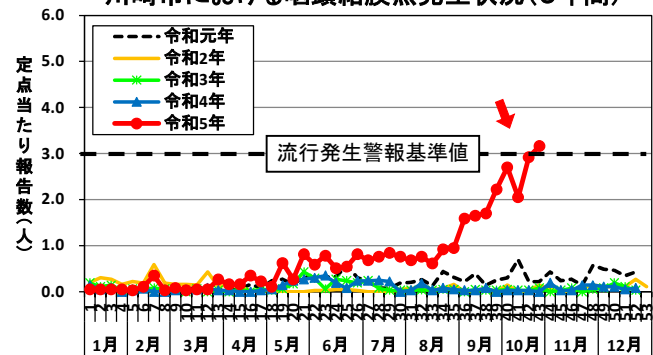
咽頭結膜熱の主な症状は、39℃前後の高熱や結膜充血、咽頭痛等で、特に熱は5日前後続く場合がありますが、比較的予後は良好です。しかし、肺炎等を合併することもあるため、特に基礎疾患のあるお子さんは注意が必要です。

小児が集団で過ごす保育園等では、タオルやおもちゃの共用を避け、手洗い等を徹底して感染の拡大を防ぎましょう。

川崎市における咽頭結膜熱分布マップ（第43週）



川崎市における咽頭結膜熱発生状況（5年間）



咽頭結膜熱の予防対策

流水と石けんで十分に手を洗う。

プールや温泉施設等の利用前後はシャワーを浴びる。

タオルやおもちゃの共用は避ける。